

とちぎいやしの園芸研究会会報 第44号

平成23年3月26日

創立10周年記念行事開催

いやしを目的とした園芸活動を学習し、県内での普及・実践を目指して「とちぎいやしの園芸研究会」が平成12年5月25日発足、10周年を記念して講演会、経過報告、来賓祝辞、感謝状贈呈、祝賀会などが去る2月19日(土)午後1時30分から「ニューみくら」(宇都宮市昭和)で開催されました。

1. 記念講演会(第3回学習会) 午後1時30分~ 会員と新聞で知った方など41名が参加
講師 宇都宮大学農学部生産科学科 准教授 山根健治先生(とちぎいやしの園芸研究会顧問)
演題 「園芸福祉を科学する」

1) 植物・花と人の進化

酸素濃度と大きな胎盤を持つほ乳類の進化、花とほ乳類の進化の研究などでみられるように、ほ乳類・人類の出現に花・植物が関係している。人は古くから花の美しさを発見、日本人は文化的に観賞植物への関心が高い。花・植物によって経済も影響を受けたが、人間活動により植物の絶滅危険種も増加してきた。昆虫と花のような共進化ではないが、進化の過程、美意識や文化の向上、経済面など多面的な影響を受けてきた。

2) 園芸・植物の生理・心理的研究の歴史

個人差はあるものの、植物は生理的リラクゼーションを促進する傾向にある。メカニズムは不明だが、植物は「痛み」を緩和する可能性がある。海外の研究で、「病室からの景色が外科手術患者の回復に及ぼす影響」・「身体的不快感の室内植物による軽減の可能性」などは良く知られるところである。また、植物の青葉アルコールや青葉アルデヒドにストレス解消、疲労回復効果があることもわかってきた。

3) 園芸・植物の環境への影響

室内の空気をきれいにする植物、エコ・プラントが知られてきた。建築上では屋上緑化と壁面緑化に温度を下げる効果があり多くのところで採用されている。ヒートアイランド現象の緩和にも効果が大きく、一例として皇居周辺で温度がその外回りより数度低下していることもわかってきた。また、災害時にも樹木の根が斜面や基盤の崩壊を防止すること、街路樹が木造建物の崩壊を支え道路交通を確保できたこと、建物からのガラス・看板等の落下を防止した例など報告されている。

4) 園芸福祉の実施とエビデンス(根拠)

全国の市民農園数と面積の増加(農林水産省)、福祉施設・医療施設における園芸の実態調査(全国に9700施設、松尾著2005社会園芸学のすすめ)などからわかるように園芸福祉活動のニーズは高い。しかし例えば脳内の生理的变化を直接確かめるような生理学的パラメーター(助変数)での評価は難しく、心理テスト・評価表・ナラティ



ブ評価が主である。園芸療法評価の試みとしては(注)「淡路式園芸療法評価表と既存の評価尺度による検証」などの研究が行われており「園芸をすると何が良くなるのか」という基本的な評価にチャレンジする動きもある。リハビリの手段として特許も申請されているが、まだエビデンス(根拠)不足で客観的評価の難しい分野でもある。

5) とちぎいやしの園芸研究会に協力いただいた研究では、お礼申し上げます。

「高齢者の園芸活動と身体的・精神的QOL」2008

「園芸活動プログラムが人の自我状態に影響する可能性」2008

10年余、園芸福祉という分野で施設や病院に出向きボランティア活動を実際に続けられているという実績には心から敬意を表します。これからも皆さんのお力になれることがあれば幸いです。

(注)淡路式園芸療法評価表は、兵庫県立淡路景観園芸学校豊田正博先生を中心に手掛けられたもの

2. 経過報告 草創の頃の話を中心に

川里宏会長

USにおいて園芸を医療に利用するという所謂園芸療法が注目され始めたのは、1950年以降のことです。かの塚本洋太郎先生の名著1980年刊行の「園芸の時代」の中でも園芸療法の記述は僅かに一行だけでありまして、我が国での園芸セラピーの普及は澤田みどり氏がUSより帰朝した1992年(平成4年)以降のことです。これより10年間、園芸療法は高齢化社会を背景に急速に普及し、松尾先生提唱の園芸福祉なる概念で示されるようになって来ました。

私たちの活動も園芸福祉の立場に立つもので、いやしの園芸研究会として2000年(平成12年)に発足しました。その誕生のいきさつはこの3年前の平成9年に岩手県東和村で開催された世界園芸療法研究大会までさかのぼることが出来ます。この大会に参加し熱心さに感銘を受けた和久井武氏は県の園芸行政に関与している立場を生かし、栃木県フラワーパーク化推進構想に園芸福祉の考えを盛り込むことに努力し、平成12年3月にグロッセ世津子氏の講演会を県主催で開催することが出来ました。この時の出席者から園芸福祉ボランティア希望者をつのり、多数の希望者を迎え同年5月25日に本会の設立総会を開催しました。

これに先立って和久井氏は青森県を訪ねて県の園芸福祉行政を調査し、園芸活動と福祉の関連に自信を深められました。また県内福祉施設に秋山泰男氏の協力を得て、アンケート調査を実施し園芸に興味・関心をもつ施設を探り、これらの人たちと一般の園芸愛好者と共に福祉のプロとボランティアが一緒に活動できる素晴らしい本会が出来下地を作られました。

発足時は個人会員32名、団体会員7ヶ所でありましたが、順調に会員が増え現在11箇所の施設で活動が行なわれ生産園芸、趣味園芸に続く福祉園芸なる第三の園芸が発展していることを、皆様と喜びたいと思います。10年間、毎年の学習会、会報発行、各施設での活動を続けて来られたことをお互いに感謝しあいしたいと思います。このたびの園芸クラフトの本も10周年に花を添えるものとなりました。

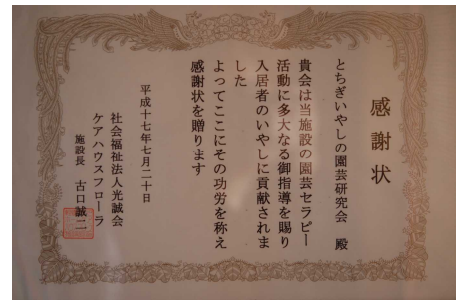
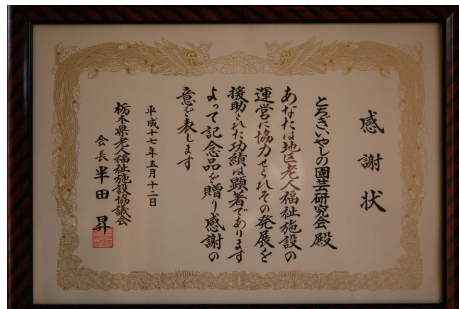
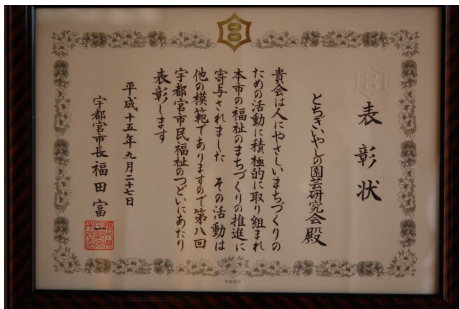
今日まで会を育ててくださった県当局、社会福祉協議会始め福祉関係者、顧問の先生方、事務局ハ モニ と会員の皆様にお礼を申し上げます。また活動半ばでお亡くなりになられた会員の方々にも、今日のことを報告し御冥福をお祈りしたいと存じます。今後とも園芸福祉活動が広く県内に普及し多くの施設利用者と共にボランティア各位の生きがい作りに少しでも貢献出来るよう努力して行くことを確認



し経過報告といたします。

とちぎいやしの園芸研究会がこれまでに受けた表彰

- ・平成15年9月27日 宇都宮市長 福祉のまちづくり推進
- ・平成17年5月12日 栃木県老人福祉施設協議会
- ・平成17年7月20日 社会福祉法人 光誠会 ケアハウスフローラ



3. 来賓祝辞 徳次郎デイサービスセンター 近藤貴子 施設長

栃木県老人福祉施設協議会の会員でもある事務局のハーモニーさんから「いやしの園芸」があるということを知り、希望したところ、早速、川里会長と事務局で私どものデイサービスセンターを訪問していただき施設を見てもらいました。菜園にするスペースも無くあきらめかけていたところ、東側にある細い空き地の活用を提案していただきここでも出来るんだということがわかりました。常連のボランティアさんも決めていただき月1回の活動が始まってから途切れなく3年が経ちました。月1回なので他の週の利用者さんには園芸担当の職員が、覚えておいて園芸活動を行っています。利用者さんがとても生き生きとされ、作品を自宅に持ち帰ってもらうこともあります。デイサービスセンターの特色にもなり、何よりも充実した中で継続しているということについて、ボランティアの皆様にも心より感謝しています。今年の老人福祉施設協議会の研修に園芸福祉を取り上げたいと思っています。



4. 感謝状贈呈

和久井武（前会長）さん



とちぎいやしの園芸研究会創立、園芸ボランティアの育成に尽力「今は体調のこともあり園芸活動に参加できませんが、ボランティアさんが出かける活動日には、朝日に向かって手を合わせ仲間の皆さんの活躍を祈っております。」

山根健治（顧問）さん



園芸福祉の学術的側面からの当会への貢献「とても恐縮しています。これからも何かご支援が出来れば幸いです。」

関口忠雄（事務局）さん

発足以来、事務局をつとめた当会への貢献



「会報作成、文書作り、連絡ごとなど実務は中村臣一さんが主にやってくれています。事務局は中村さんと2人3脚でやってきました。2人で感謝状をいただきます。」

5. 祝賀会（懇親会）

午後3時40分～

同会場において28名が参加、来賓の特別養護老人ホーム宝寿苑 岩崎正日登施設長から祝辞をいただき、乾杯後参加者全員から10年を振り返り思い出話に花が咲きました。



佐藤孝副会長開会の挨拶



秋山泰男会員の音頭で乾杯



安野弥一郎会員の閉会の挨拶